

豊かに快適な環境を求めて・・・



爽やかな笑顔、
真心のサービス

2024年度環境経営レポート

2024年4月～2025年3月



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です



©環境省
エコアクション21
認証番号0011545

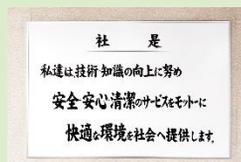
～ 目 次 ～

1. 社是・経営方針・環境方針
2. 組織の概要
 - ◆事業者名及び代表者氏名
 - ◆事業所所在地
 - ◆環境管理責任者及び担当者連絡先
 - ◆創業（設立）年月日
 - ◆資本金
 - ◆認証・登録範囲
 - ◆事業の規模
 - ◆実施体制
3. 環境経営目標とその実績
 - 3-1. 環境負荷の現状（令和6年度環境負荷自己チェック結果より）
 - 3-2. 環境経営目標（単年度・中期）と達成状況及び翌年度の目標
4. 環境経営計画と取組結果
5. 指定管理施設の環境負荷について
6. 環境関連法規等の遵守状況、訴訟等の有無
 - 6-1. 適用となる環境関連法規等とその遵守状況
 - 6-2. 法令違反・訴訟等の有無
7. 代表者による見直しの結果

1. 社是・経営方針・環境経営方針

社是

私達は、技術・知識の向上に努め
安全・安心・清潔のサービスをモットーに
快適な環境を社会へ提供します。



経営方針

私達は お客様感動を達成します

私達は 事故ゼロを継続します

私達は 不祥事案を撲滅します

私達は 環境方針を推進します

環境経営方針

【環境理念】

私達は、ふるさとの豊かな環境を守り、持続可能な社会の実現を目指すため、環境マネジメントシステムの継続的な運用改善を図り、自らの環境負荷を可能な限り削減していくとともに、総合ビル管理、警備、指定管理等の業務を通じて、「安全・安心・清潔」に関する技術と真心サービスを提供しつつ、お客様の環境負荷の削減にも寄与してまいります。

【環境行動指針】

1. 環境関連法規等を遵守します
2. 電力使用、化石燃料の消費に伴い発生する二酸化炭素を計画的に削減していきます
3. 廃棄物を可能な限り削減するとともに分別を徹底し、リサイクル率の向上に努めます
4. 節水に努め、水資源を大切にします
5. 化学物質の使用量を削減していきます
6. 社員のスキル向上により、業務の効率化を図り、他社との差別化を図ります
7. お客様の環境負荷削減につながる提案を積極的に行い、可能な範囲で実践します
8. 地域の環境保全活動に貢献します

制定日：平成28年6月1日

最終改定日：令和7年6月1日

株式会社エービーエム
代表取締役社長 斎藤 正則

2. 組織の概要

事業所名	株式会社イービーエム	
代表者	代表取締役社長 齋藤 正則	
所在地	本社 〒992-0003 山形県米沢市窪田町窪田584-2 南陽営業所 〒992-0472 山形県南陽市宮内4641	
環境管理責任者	清掃業務部部长 遠藤 雅之	
担当者/連絡先	企画・人事部部長 田口 浩之 TEL 0238-37-5733 FAX 0238-37-2822	
資本金	1,000万円	
創業（設立年月日）	1968年（昭和43年）9月25日	
認証・登録範囲	対象サイト：本社ならびに南陽営業所、指定管理施設	
事業概要	警備業務（機械警備・常駐警備等）、清掃業務（日常清掃・定期清掃等） ビル総合管理業務（設備管理・環境衛生管理等）、指定管理業務	
沿革	昭和43年9月	株式会社オールビルマネジメントとして創業ビルメンテナンス業としては県内2番目。その後、警備保障部、設備管理部を設け、米沢市市民文化会館の舞台操作業務を開始
	平成3年8月	株式会社イービーエムに改称し、現在地に移転
	平成5年7月	南陽市宮内に南陽営業所を開設
	平成18年4月	米沢市市民文化会館指定管理業務開始
	平成27年9月	イービーエムエナジー合同会社を設立し、メガソーラーによる再生可能エネルギー事業を開始
	平成28年12月	エコアクション21認証登録（登録番号0011545）
	平成31年2月	環境コミュニケーション大賞優良賞を受賞
	平成31年4月	山形大学白楊寮維持管理運営業務開始
	令和元年6月	「山形県環境保全推進賞」を受賞
	令和3年4月	自社生成する強アルカリイオン電解水「楽落水」として商標登録し販売を開始
	令和3年3月	健康経営優良法人2021に認定（2025継続認定）
	令和6年12月	エコアクション21更新完了

事業規模・対象範囲（認証・登録範囲）

事業年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業規模								
売上高（千円）	791,260	826,570	847,513	832,691	901,540	925,291	938,070	995,048
認証対象従業員数 /全従業員数	234/268	280/280	280/280	270/270	270/270	270/270	270/270	270/270
従業員数：本社	38	38	38	38	38	44	44	44
従業員数：南陽営業所	7	7	7	7	5	5	5	9
床面積（㎡） ：本社	303.9							
床面積（㎡） ：南陽営業所	101.8							

※売上高は、当社会計年度（4～3月）に合わせて集計しています。従業員数は各年度4月時点での在籍数です。従業員数には、業務受託現場に直行直帰する従業員は含まれていません。

実施体制（令和7年6月～）

代表者

代表取締役社長 齋藤 正則

環境管理責任者

清掃業務部部長 遠藤 雅之

内部監査役

設備管理部部長 近野 拓哉

環境事務局

□本社： 田口 浩之
鈴木 水里
□南陽営業所 嶋津 優美

副環境管理責任者 (製品・サービス関連)

□企画・人事部部长 田口 浩之
□南陽営業所所長 五十嵐 久人

指定管理施設

米沢市市民文化会館
米沢市児童会館
米沢市営体育館
置賜総合文化センター
南陽市勤労者総合福祉センター

内部監査チーム

遠藤 雅之 田口 浩之 五十嵐 久人
鈴木 水里 嶋津 優美

(車両管理)

□警備部課長 飯澤 信幸
□南陽営業所 五十嵐 雄一

(省エネルギー)

□設備管理部 田中 祐樹
□南陽営業所 平井 悟

(廃棄物管理)

□施設管理部課長 我彦 政孝
□南陽営業所 佐藤 真実

(地域貢献・環境美化・5S)

□清掃業務部課長 手塚 直利
□南陽営業所 奥山 奈津子

全従業員

役割・責任・権限	
代表者（社長）	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 環境管理責任者（現場環境管理責任者）を任命 環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 環境目標・環境活動計画書を承認 代表者による全体の評価と見直しを実施 効果的で必要十分な実施体制を構築する 経営における課題とチャンスを整理し、明確にする 環境活動レポートの承認
内部監査役	<ul style="list-style-type: none"> 内部監査チームを組織して、適切に内部監査を実施する 監査の結果を代表者及び環境管理責任者に報告する 内部監査員の教育を実施する
内部監査員	<ul style="list-style-type: none"> 内部監査役の指示により、中立的な立場で、対象となる部門の内部監査を実施し、マネジメントシステムの有効性について評価し、記録を作成し、内部監査役に提出する
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、実施、管理 環境関連法規等の取りまとめ表を承認 環境目標・環境活動計画書を確認 環境活動の取組結果を代表者へ報告 環境活動レポートの作成・発行
副環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者を補佐する それぞれの所轄（本社・南陽営業所）の環境の取組を管理する
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局 環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 環境目標、環境活動計画書原案の作成 環境活動の実績集計 環境関連法規等取りまとめ表の作成 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 環境活動レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付）
EA21推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> 定期（四半期ごと）又は環境管理責任者の招集により開催する 推進委員会のメンバーは、正副環境管理責任者、環境事務局とし、そのときの審議事項の内容によって、代表者、内部監査役の出席を仰ぐ 委員会の議題は、環境目標の達成状況、環境活動計画の取組状況、環境関連法規の順守状況、環境上の苦情や緊急事態への対応、内部監査の結果や審査人からの指摘事項への対応、その他、環境管理責任者が必要と判断した事項とする 審議の結果に基づき、適切な是正予防処置を定め、関係者に指示する
部門責任者 ■製品・サービス関連 ■車両管理 ■省エネルギー ■廃棄物管理 ■地域貢献・環境美化・5S	<ul style="list-style-type: none"> 関連する環境目標ならびに環境活動計画の設定ならびに改訂の提案 環境活動計画の取組状況の監視ならびに指導 環境目標の達成状況に応じた是正策予防策の提案と実施または目標の見直しの具申 環境負荷削減につながる改善提案ならびに情報収集 取組に必要な手順書・マニュアル等の整備 取組に必要な環境教育の企画と実施 その他、担当部門の目標達成に必要な事項
施設環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 施設内の環境の取組を管理する 施設内における環境負荷の削減に向けた目標と活動計画の提案 環境負荷データの取りまとめと報告 環境目標の達成状況に応じた是正策予防策の提案と実施または目標の見直しの具申
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

3. 環境経営目標とその実績（本社及び南陽営業所）

3-1. 環境負荷の現状（令和6年度環境負荷自己チェック結果より）

■ 二酸化炭素排出量

※電力使用に係る二酸化炭素排出係数については、令和4年度東北電力（調整後：0.477）を用いています。

1) 当社における令和6年度のCO₂排出量は合計74,624kg-CO₂となっており、前年度比7.0%増加しました。これは平均的な一般家庭30軒分の年間CO₂排出量に相当します。

（令和5年度世帯平均年間排出量2.47 t-CO₂ 出典：家庭部門のCO₂排出実態統計調査（環境省HP））

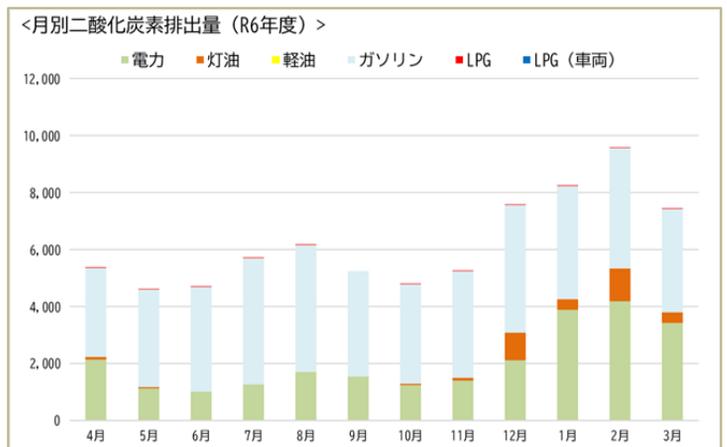
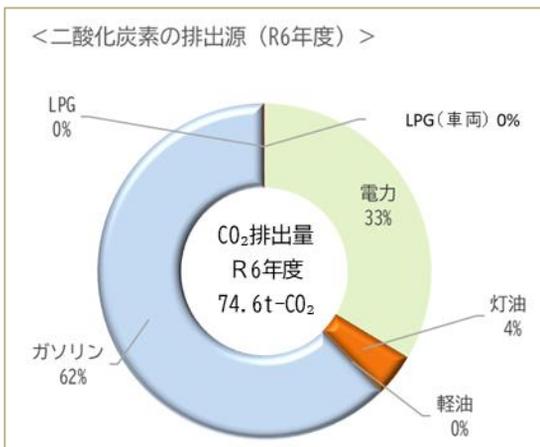
2) 当社から排出されるCO₂の62.3%はガソリンの消費によるもので46,509kg-CO₂（前年比8.1%増）、次いで電力の使用に伴うものが33.5%、24,984kg-CO₂（同9.2%増）、灯油の消費に伴うものが4.2%、3,097kg-CO₂（同10%減）などとなっています。

3) ガソリンは、業務用車両の運行に伴い消費し、電力は事務所の照明、冷暖房、消雪用井戸ポンプの稼働で使用しています。また、LPGは事務所給湯用となっています。

4) 月別のCO₂発生量は12月～3月の冬期間（降雪期）に多くなっています。これは、灯油消費量の増加と消雪ポンプ稼働に伴う電力使用量が増加するためです。令和6年度は大雪で厳しい冬でしたが、灯油の使用量は減少しています。ガソリンは、月による変動にあまり特徴はありませんが7月、8月、12月、1月が多い傾向にあります。これは、冷房、暖房を使用しているためです。

令和2年度行った本社のリフォームによって灯油による暖房から省エネタイプのエアコンに切り替えを行いました。

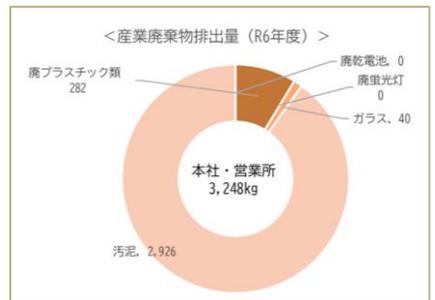
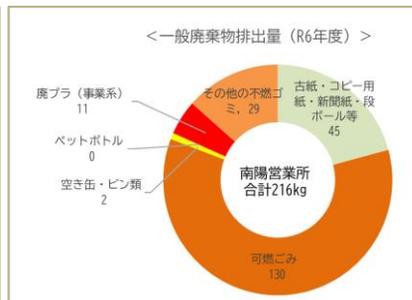
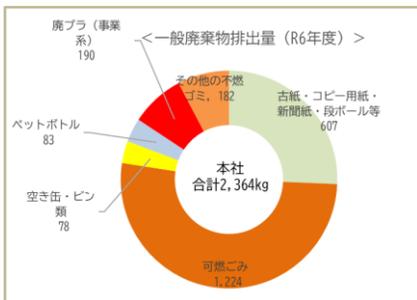
5) 以上のことから、特に車両運行に伴うガソリン・LPGの削減、冬期間の暖房使用及び、消雪用ポンプ稼働に伴う電力使用の削減などが重点課題となります。



■ 廃棄物排出量

1) 一般廃棄物：可燃ごみ、紙類（資源回収対象）などは、行政の分別ルールに従い、本社・南陽それぞれ、量を把握した上で排出しています。本社は可燃ごみが最も多くなり、1,224kg、次に紙類（再生資源）で607kgとなりました。また、南陽営業所では、可燃ごみが最も多く130kg、次いで紙類が45kgとなっていました。なお、リサイクル率は本社40.5%、南陽営業所は26.6%でした。

2) 産業廃棄物：汚泥（ワックス剥離液・洗剤廃液等）が90%（2,926kg）が最も多く、次に廃プラスチック約8%（282kg）となりました。その他の廃棄物についてはガラスがありました。



■ 総排水量（水使用量）

本社・南陽ともに融雪用に地下水を利用していますが、量は把握できません。水道は、すべて生活用水となります。本社、南陽合わせて、494m³使用しました。前年比7.8%増加しました。なお、放流先は本社は公共用水域（浄化槽）、南陽は下水となります。

■ 化学物質使用量（購入量）

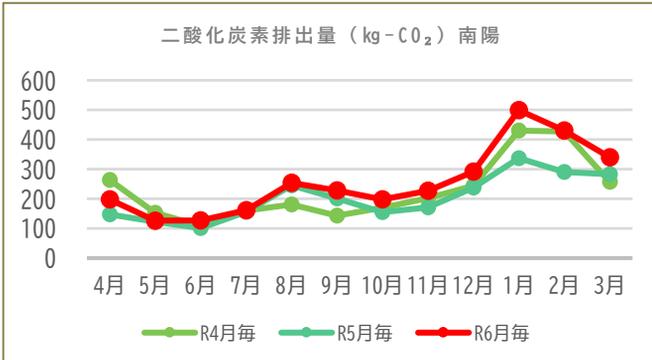
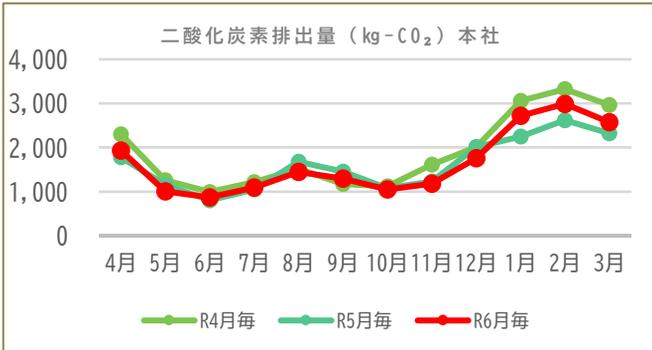
清掃業務に使用する洗剤、剥離剤等にPRTR成分を含有しているものを以前は使用していましたが、PRTR成分を含有している洗剤、及び剥離剤は使用していません。

3-2. 環境経営目標（単年度・中期）と達成状況

環境経営方針との整合性を図りながら、環境負荷の自己チェックの結果を踏まえ、6項目（二酸化炭素、廃棄物、水、化学物質、製品・サービス関連）について、環境目標（単年度目標&5年間の中期目標）とその達成に向けた環境活動計画を策定し、取組を行いました。達成状況は下記のとおりです。

■ 二酸化炭素排出量（電力）

【R6年度目標】（本社）R3年度比8%削減（南陽）R3年度比6%削減
 【中期目標（R3~R7）】（本社）R3年度比8%削減（南陽）R3年度比8%削減



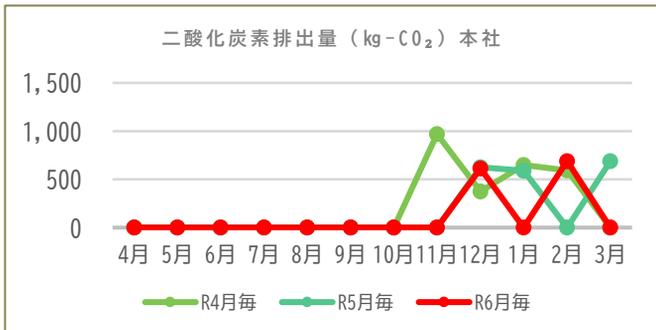
【取組結果】（取組期間：R6.4~R7.3）
 ■基準年度実績：24,790kg-CO₂ ■取組期間目標：22,873kg-CO₂
 ■取組期間実績：22,980kg-CO₂
 ■増減量：-1,810kg-CO₂ ■増減率：-7.3%

【取組評価】
 ・夏は暑く、今年は雪も多く厳しい冬でした。冷房暖房はエアコンを使用していますが、室内温度を意識し節電を心がけました。
 ・目標にはわずかに到達出来ませんでした。

【R7年度目標】（本社）R3年度比8%削減（南陽）R3年度比8%削減

■ 二酸化炭素排出量（灯油）

【R6年度目標】（本社）R5年度比2%削減（南陽）R5年度比2%削減
 【中期目標（R3~R7）】（本社）R5年度比4%削減（南陽）R5年度比5%削減



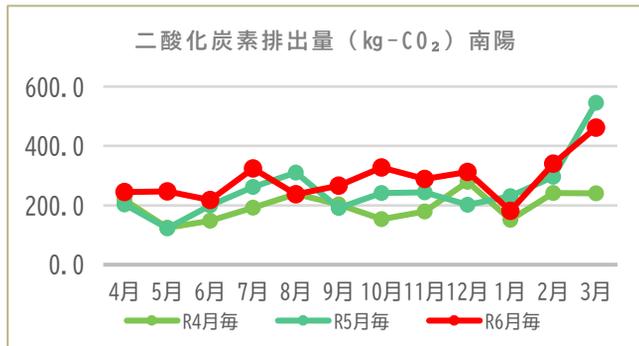
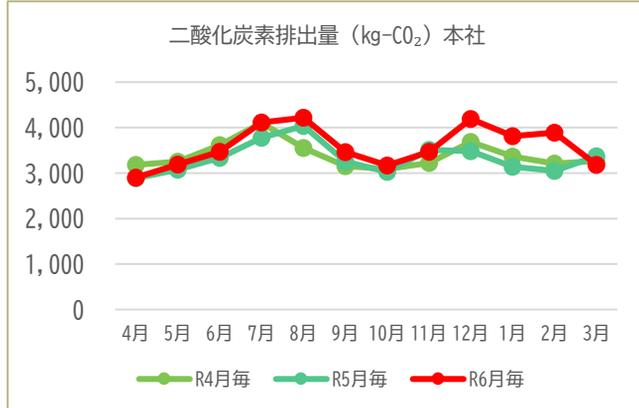
【取組結果】（取組期間：R6.4~R7.3）
 ■基準年度実績：3,474kg-CO₂ ■取組期間目標：3,405kg-CO₂
 ■取組期間実績：3,097kg-CO₂
 ■増減量：-377kg-CO₂ ■増減率：-10.8%

【取組評価】
 ・南陽営業所では洗濯物を乾燥させるために、石油ストーブを使用しています。寒波の影響もあり使用量は増加しました。一方で本社は暖房をほぼエアコンに切り替えたこともあり、全体を通して見ると目標を達成することが出来ました。

【R7年度目標】（本社）R5年度比4%削減（南陽）R6年度比2%削減に見直し

■ 二酸化炭素排出量 (ガソリン)

【R6年度目標】 (本社) R3年度比9%削減 (南陽) R3年度比6%削減
 【中期目標 (R3~R7)】 (本社) R3年度比10%削減 (南陽) R3年度比8%削減



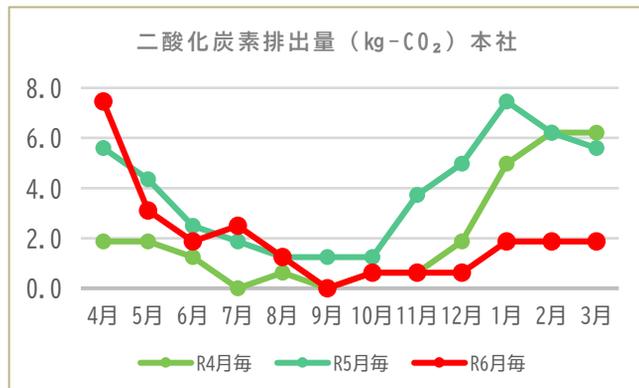
【取組結果】 (取組期間: R6.4~R7.3)
 ■ 基準年度実績: 49,282kg-CO₂ ■ 取組期間目標: 44,990kg-CO₂
 ■ 取組期間実績: 46,508kg-CO₂
 ■ 増減量: -2,774kg-CO₂ ■ 増減率: -5.6%

【取組評価】
 ・エコドライブ、エコカーへの切替も進めております。
 ・車両の台数が増えたこと、走行距離も増えていることもあり、また酷暑、寒波の影響で用量が増加しました。
 ・結果目標には届きませんでした。

【R7年度目標】 (本社) R3年度比9%削減に見直し (南陽) R3年度比8%削減

■ 二酸化炭素排出量 (LPG)

【R6年度目標】 (本社) H27年度比77%削減 (南陽) H27年度比85%削減
 【中期目標 (R3~R7)】 (本社) H27年度比77%削減維持 (南陽) H27年度比85%削減維持



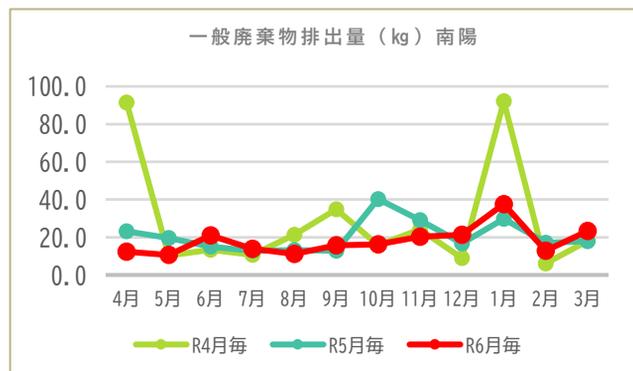
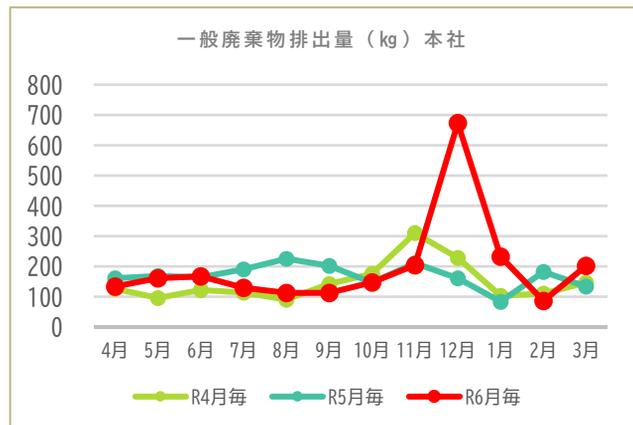
【取組結果】 (取組期間: R6.4~R7.3)
 ■ 基準年度実績: 308kg-CO₂ ■ 取組期間目標: 57.2kg-CO₂
 ■ 取組期間実績: 32.9kg-CO₂
 ■ 増減量: -275.1kg-CO₂ ■ 増減率: -89.3%

【取組評価】
 ・本社は当初用量が増加しましたが、改めて周知することで使用量は減少し、冬期間になっても低く推移しました。
 ・南陽営業所は社員数が増えガス利用も増加いたしました。ガス給湯器の使用ルールを徹底いたしました。
 その結果、目標を達成することが出来ました。

【R7年度目標】 (本社) H27年度比77%削減維持 (南陽) H27年度比85%削減維持

■ 一般廃棄物排出量

【R6年度目標】（本社）R3年度比3%削減（南陽）R5年度比2%削減
 【中期目標（R3~R7）】（本社）R3年度比4%削減（南陽）R5年度比4%削減



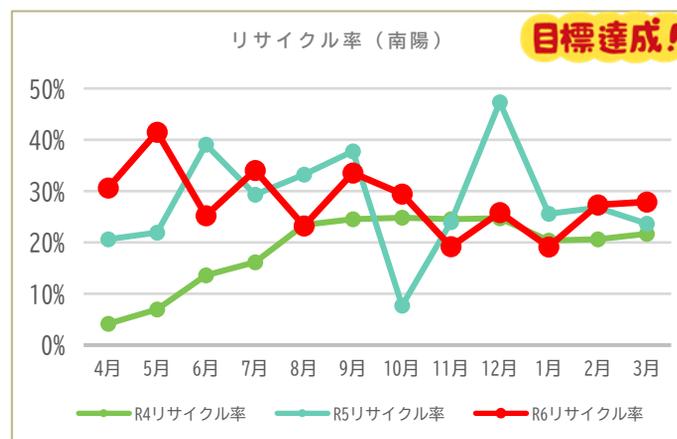
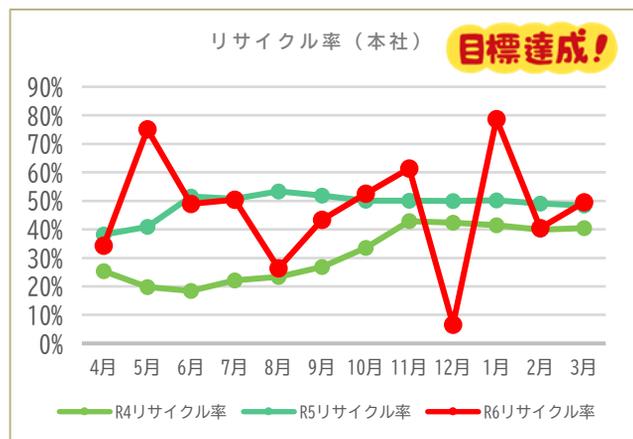
【取組結果】（取組期間：R6.4~R7.3）
 ■基準年度実績：1,492kg ■取組期間目標：1,449kg
 ■取組期間実績：2,580kg
 ■増減量：+1,088kg ■増減率：+72.9%

【取組評価】
 ・ユニフォームの切替のため回収した古いユニフォームを廃棄しました。営業所は年度末で引っ越し引き渡し清掃の繁忙期でリサイクル不可のゴミが増加しましたが、排出量は抑えることができました。
 ・イレギュラーの排出があり目標達成できませんでした。

【R7年度目標】本社：R3年度4%削減 南陽：R5年度4%削減

■ リサイクル率

【R6年度目標】（本社）35%（南陽）27%
 【中期目標（R3~R7）】（本社）36%（南陽）29%



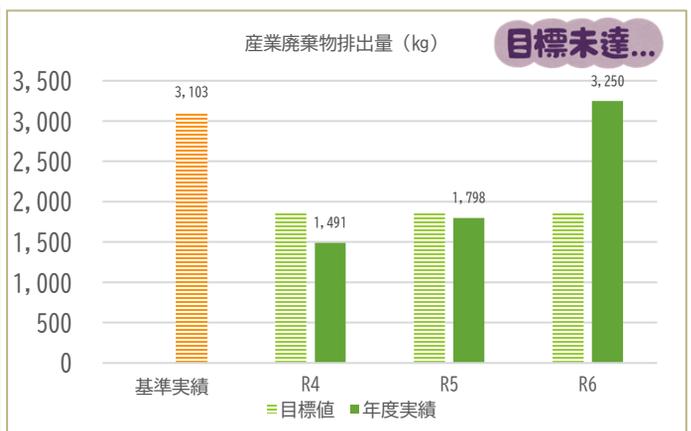
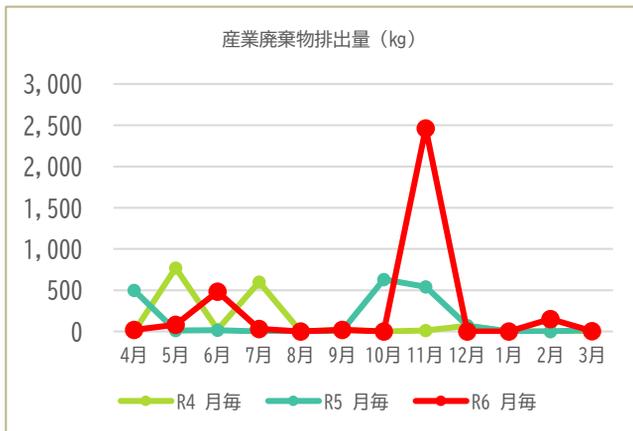
【取組結果】（取組期間：R6.4~R7.3）
 ■取組期間目標：本社：35% 南陽：27%
 ■取組期間実績：本社：41% 南陽：27%

【取組評価】
 ・排出量は増加したものの、リサイクル対象廃棄物だったため、リサイクル率は目標を達成することが出来ました。

【R7年度目標】本社：36%を維持 南陽：29% (2pointアップ)

産業廃棄物排出量

【R6年度目標】（本社）H27年度比40%削減（南陽）本社で一括管理のためなし
 【中期目標（R3~R7）】（本社）H27年度比40%削減維持



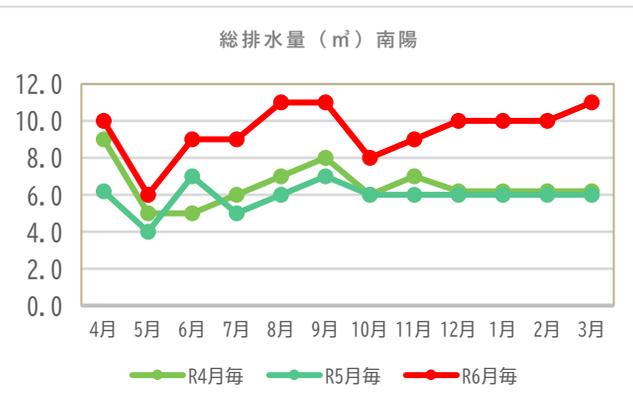
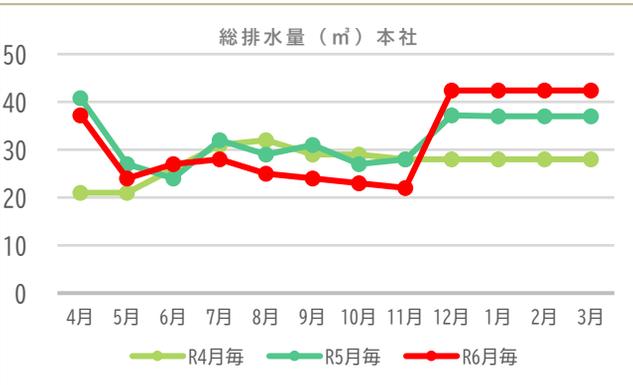
【取組結果】（取組期間：R6.4~R7.3）
 ■基準年度実績：3,102kg ■取組期間目標：1,862kg
 ■取組期間実績：1,798kg
 ■増減量：-1,305kg ■増減率：-42%

【取組評価】
 ・11月に汚水ますの污泥処分と清掃を行ったことにより排出量は増加しましたが、その他の排出量は減少しています。
 ・結果として目標は達成出来ませんでした。

【R7年度目標】本社・南陽：H27年度比40%削減維持

総排水量

【R6年度目標】（本社）R2年度比10%削減（南陽）R2年度比10%削減
 【中期目標（R3~R7）】（本社）R2年度比10%削減維持（南陽）R2年度比10%削減維持



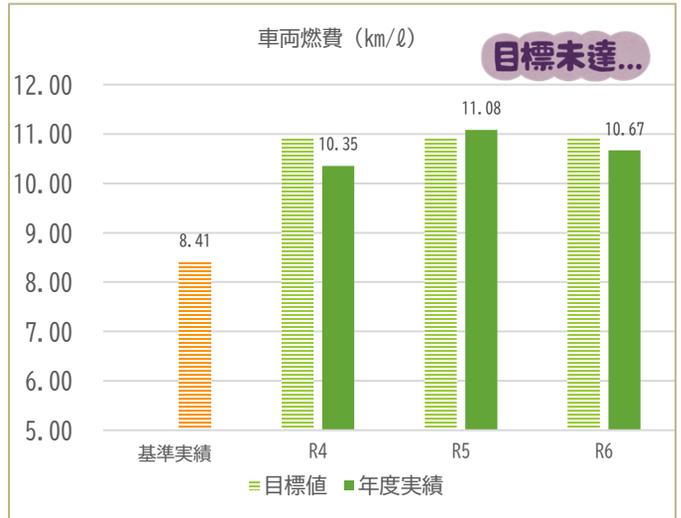
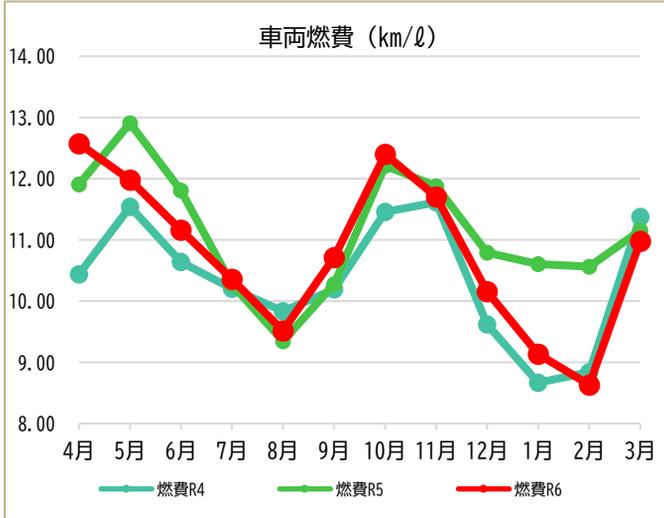
【取組結果】（取組期間：R6.4~R7.3）
 ■基準年度実績：714m³ ■取組期間目標：642m³
 ■取組期間実績：494m³
 ■増減量：-220m³ ■増減率：-30.8%

【取組評価】
 ・本社については、節水の意識が浸透しています。営業所は社員数が増えているが、徐々に改善されました。結果、目標を達成することが出来ました。

【R7年度目標】本社・南陽：R2年度比10%削減維持

■ 車両燃費

【R6年度目標】（全社）基準年度H27年度より30%燃費向上
 【中期目標（R3~R7）】（全社）基準年度H27年度より30%燃費向上維持



【取組結果】（取組期間：R6.4~R7.3）

- 基準年度実績：8.41km/ℓ
- 取組期間目標：10.93km/ℓ
- 取組期間実績：10.67km/ℓ
- 増減量：2.26km/ℓ向上

【取組評価】

- ・燃費の良い車両への入れ替えを行ったこと、エコドライブの意識が浸透しておりますが、夏は蒸し暑い日が多く、寒波の影響もあり、燃費が下がりました。
- ・特に8月と2月は酷暑と寒波により、車両のエアコン使用が増えたためと考えられます。
- ・結果、わずか目標には届きませんでした。

【R7年度目標】（全社）基準年度H27年度より30%燃費向上維持

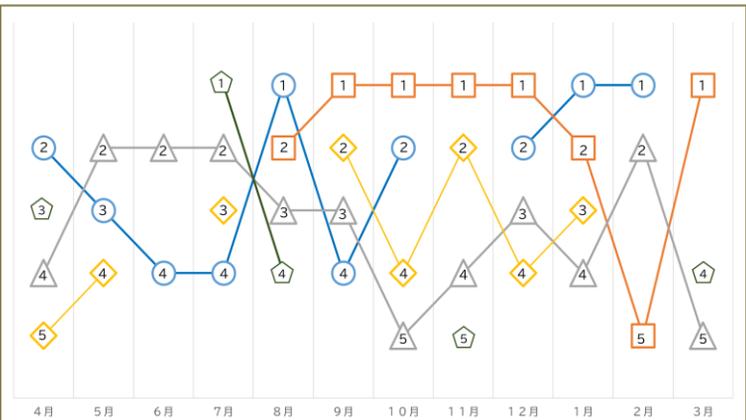
社有車 **E-1GP**

2024-2025



社有車E-1GPとは エコドライブを全従業員に周知するため、広報誌面において、社有車の燃費を毎月集計し、その月の燃費の良かった順位ベスト5を発表しています。毎年その順位にポイント（例、1位だと5点獲得）を付けて集計し、年間の高燃費車両を勝手に表彰するものです。

順位	種別	車名	所属	獲得ポイント
1位	日産NVクリッパー	設備3号車	設備管理課	36pt
2位	三菱ekワゴン	南陽1号車	南陽営業所	34pt
3位	日産NTクリッパー	設備4号車	設備管理課	33pt
4位	ホンダNバン	業務4号車	清掃業務課	22pt
5位	日産NVクリッパー	南陽3号車	南陽営業所	13pt



令和6年度のエコドライブオブザイヤーに輝いたのは、日産NVクリッパー設備3号車でした。永遠のライバル絶対王者日産デイズの引退とともについに年間王者に到達いたしました。2位は三菱ekワゴン南陽1号車。初登場が8月にも関わらず、年間王者にわずか2ポイント差、2月に調子を落としたのが大きかったですね。3位は日産NTクリッパー設備4号車でした。実は年間通してランクインを果たし大健闘でした。全体の燃費に関しては目標値の10.93km/ℓはわずか届きませんでした。確実にエコドライブ意識は高まっていますと思われる。引き続き安全運転、エコドライブをお願いいたします。



■ 化学物質使用量 (PRTR対象物質)

【R6年度目標】 (全社) 化学物質 (PRTR対象物質) 使用ゼロ
 【中期目標 (R3~R7)】 (本社) 化学物質 (PRTR対象物質) 使用ゼロを維持

【取組評価】

・清掃業務で使用している洗剤、ワックス、剥離剤は化学物質を一切含まない製品に切替を進め、令和2年度に全て化学物質を含まない製品に切替しました。新しく導入する製品は必ずSDS (安全データシート) を取り寄せ、化学物質を含まないことを確認するように留意いたします。

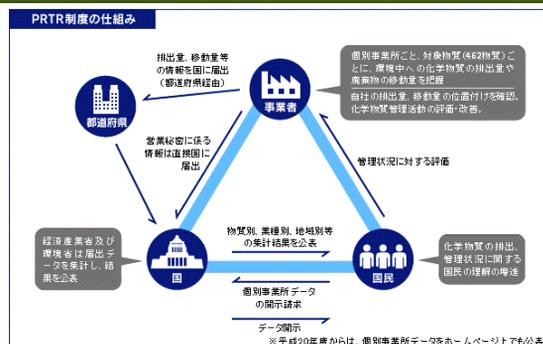
目標達成!

【令和7年度目標】 化学物質 (PRTR対象物質) 使用ゼロを維持

- ・2024年の労働安全衛生法改正により、事業者は自律的かつ継続的な化学物質管理を行う責務を負うこととなりました。
- ・対象物質が拡大する可能性があるため、化学物質管理者を中心に情報を共有し、対象化学物質に関するSDSの入手・作成・配布、容器等への適切なラベル表示を行い、労働者が安全に取り扱えるよう環境を整備いたします。

PRTR (Pollutant Release and Transfer Register) 制度とは
 PRTR制度は、「有害な化学物質が、どこから・どれだけ環境に排出・移動しているか」を事業者が自ら把握し、国に報告することで、環境への負荷を“見える化”する制度です。
 正式には「特定化学物質の環境への排出量の把握等および管理の改善の促進に関する法律 (化管法)」に基づいて運用されています。

PRTR制度 (METI/経済産業省) より



従業員とその家族で『家庭のアクション』にチャレンジ! ~目指せ!カーボンニュートラル~

山形県地球温暖化防止活動推進センター主催の『家庭のアクション』に従業員 (当時) 246名中31名が参加しました。
 『家庭のアクション』とは、地球温暖化の原因となる温室効果ガス排出量の削減のため、県民みんなで取り組む活動です。家庭のできるアクションという前提があるため、比較的簡単な内容ばかりでした。項目ごとに1人あたりのCO₂削減量を推算しました。結果は下記のとおりです。

No.	項目	1人あたり 年間の CO ₂ 削減量 (kg)	実施人数 (従業員家族含 む)	total (92日間)	割合 (%)
1	電気冷蔵庫の開閉回数は少なくする。また、開閉時間は短くする。	5kg	89	112	0.4%
2	使用しない部屋の照明はこまめに消す。(蛍光灯の場合)	2kg	91	46	0.1%
3	暖房を使用するときは暖かい服装等をして、適切な温度で使用する。	35kg	78	688	2.2%
4	節水を心がける。(節水シャワーヘッドの活用、節水型のトイレへの交換など)	105kg	77	2,037	6.6%
5	洗濯物はまとめて洗う。	3kg	81	61	0.2%
6	エコドライブを行う。(例えば、発進時はふんわりアクセルでゆっくりスタートする、車間距離にゆとりをもって加速減速の少ない運転をする)	117kg	87	2,565	8.3%
7	統一省エネルギーラベルなどを参考に、省エネ性能の高い冷蔵庫に買い換える。	108kg	13	354	1.1%
8	LED等高効率照明を導入する。	27kg	52	354	1.1%
9	自動車を購入する際には、エコカーなどの次世代自動車を選ぶ。	610kg	23	3,536	11.4%
10	住宅の断熱リフォームをする。(内窓の設置、壁や天井などへの断熱材の付加など)	1131kg	14	3,990	12.9%
11	宅配便は1回で受け取るようにする。(宅配BOXの活用など)	21kg	67	355	1.1%
12	マイボトル・マイバッグなどの活用、分別などにより容器包装プラスチック等のごみを削減する。	29kg	87	636	2.1%
13	太陽光発電設備を設置する。	920kg	8	1,855	6.0%
14	薪・ペレットストーブなどの木質バイオマス燃焼機器を利用する。	346kg	0	0	0.0%
15	ZEH (ゼロエネルギーハウス) や「やまがた省エネ健康住宅」などの断熱・機密性能の高い住宅に住む。	2551kg	22	14,143	45.7%
16	買すぎの防止等により、家庭からの食品ロスを削減する。	5kg	80	101	0.3%
17	郵送にかかるエネルギーを少なくするよう、できる限り地元産の旬の食材を選ぶ。	8kg	45	91	0.3%
18	植樹や間伐体験など森を守る活動に参加する。	0.8kg	3	1	0.0%
19	家族がなるべく同じ部屋で過ごす。	0kg	51	0	0.0%
20	再エネ由来の電力へ切り替える。	1978kg	0	0	0.0%
削減されたCO ₂ 量 (kg)				30,923.0208	

①CO₂削減量 30,923kg
 ②CO₂削減量を杉の植樹本数に換算
 (杉は1本当たり1年間で14kg-CO₂のCO₂を吸収すると言われてます)
 $30,923 \div 14 = 2,208$ (本)
 ③広さで換算
 (1ha(10,000㎡)当たりの杉の植樹本数は約3,110本)
 $2,208 \div 3,110 \div 0.709$ (ha)

【取組評価】
 今回の活動で削減出来たCO₂排出量を杉の植樹本数に換算すると、**約2,208本**になります。
 これは、バスケットコート約17面分の広さに杉を植えたことになります。
 (※バスケットコート面積: 420㎡)
 従業員の約13%が、家庭のできるちょっとした気遣い (アクション) をたった3ヶ月間実施しただけでこれだけの結果になるのですね。
 今後も多くの社員が参加できるように働きかけてまいります。

■ 製品・サービスの環境負荷削減に係る環境目標

1) 社員のスキルアップ・・・スキルアップ研修会の実施

私たちは、専門的な知識と技術を活用し、「不便」を「便利」に、「不安」を「安心」に、「不潔」を「清潔」に変えることで、“不”を取り除くことを使命としています。その使命を果たすためには、技術と知識の向上が不可欠です。当社では、サービスの質を高めるために社員教育を徹底しています。充実した研修制度や社内資格制度を整えており、未経験者でもプロの技術を身につけることが可能です。

たとえば、清掃研修では、受講生に対して講師がほぼマンツーマンで対応し、実践的な教育を行っています。指導にあたるのは、資格を保有し、各協会では指導員を務める経験豊富な先輩社員です。一つひとつの作業に対して具体的なポイントを押さえながら指導することで、サービスの品質向上につながっています。

社内資格制度では、国家資格である「ビルクリーニング技能士」の取得を目指し、段階的に技術を習得できる仕組みを整えています。また、業務に必要な資格取得を支援するため、資格を未取得でも資格手当を支給する「資格取得補助制度」も設けています。

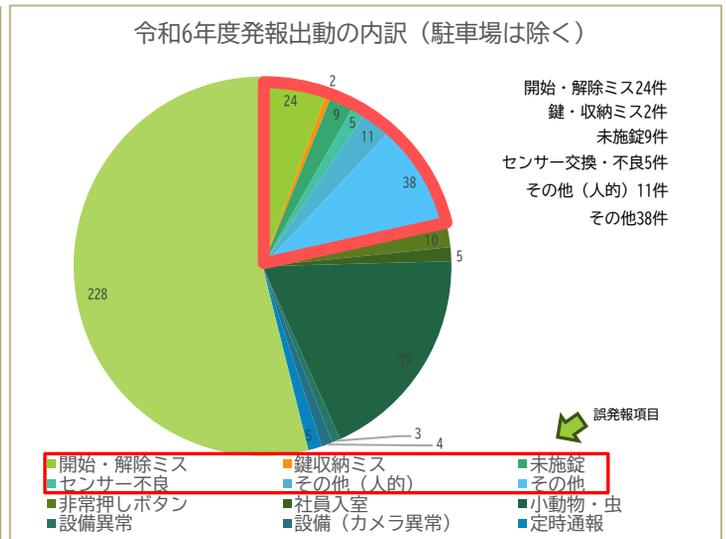
私たちの目標は、お客様に感動を届けること、そしてその先にある「この仕事はイービーエムにしか頼めないね」と言ってもらえるようなカスタマーロイヤリティの獲得です。その実現に向けて、人材育成に力を注いでいます。

R6年度 主な研修
清掃従事者研修（年1回）
警備員現任者教育（年1回）
技術講習会（年1回）
新人研修（年2回）
K Y T（危険予知トレーニング）（毎月1回）
エコドライブ研修（年1回）
社内資格制度（年1回）希望者
健康セミナー（年1回）WEBで実施

人財育成



2) 人的ミス、機器不良による緊急出動回数を減らす（発生件数の把握及び原因分析）



【取組結果】（取組期間：R6.4~R7.3）

- 基準年度実績：26%
- 取組期間目標：23%
- 取組期間実績：21.0%
- 増減量：-5%

【取組評価】

- ・ 出動件数は、423件（昨年度比+45件）、誤発報件数は89年（昨年度比+0件）となっており、出動件数が増加しているため、誤発報出動率は減少しています。
- ・ 開始・解除ミスによる発報は前年度比-4件であり、機械警備導入時の丁寧な説明が功を奏しているのだと思います。
- ・ キーボックスにマスターキー等をしまう際に失敗してしまう鍵収納ミスによる発報は昨年度と変わらず2件でした。

【令和7年度目標】誤発報出動率21%

- ・ センサーの定期的な点検や、お客様には操作方法の説明を丁寧に行うことで、誤発報を減らしてまいります。

■ 地域貢献・環境美化・5S活動

1) 会社周辺の清掃活動など

- ・株式会社イービーエムでは、冬期間を除く、毎月第一金曜日の早朝に社屋周辺清掃をおこなっております。
- ・令和6年度も4月から11月まで実施いたしました。
- ・令和6年4月24日に行われた米沢商工会議所主催の社会貢献清掃事業に参加いたしました。
- ・長年参加していたスポーツチャレンジデーは令和5年度で終了したため、イービーエム独自でスポーツ形式のゴミ拾い大会を企画いたしました。悪天候だったため実施できませんでした。



2) 地域貢献活動

- ・株式会社イービーエムでは、地域貢献事業として、置賜の学校で開催される「WAKUWAKUWORK」に参加しています。
- ・令和6年度は10月23日（水）に高畠中学校、10月8日（水）に南陽高校に行ってきました。
- ・このWAKUWAKUWORKは、企業が学校へ出向くことで地域の仕事や働くことの魅力を中学生や高校生に体験を通して知ってもらう取組です。
- ・中学生や高校生に清掃体験の機会を提供することで、イービーエムという存在を地域に根づかせ、将来の担い手育成にもつなげています。これらの地域貢献活動は、企業認知度の向上と社会的信頼の獲得に寄与しています。



3) 5S活動

- ・エコアクション推進委員会のメンバーは、エコアクション21審査員である福島先生による5S研修を受講し、社内の5S活動に積極的に取り組んでいます。
- ・特に、5Sの基本である「整理」「整頓」に注力し、作業効率の向上や管理対象備品の削減を着実に進めています。
- ・令和6年度から安全衛生パトロールを実施していますが、各現場で整理整頓が実施されているのを確認し、確実に5Sの取り組みは全社に広がっていると感じます。



4) エービーエムエコアクション大賞

- ・株式会社イービーエムでは、エコ活動の裾野を広げる活動として、P11の山形県地球温暖化防止活動推進センター主催の『家庭のアクション』への参加、そして、社員から家庭で出来るエコアイデアを募集し、表彰する「イービーエムエコアクション大賞」を行っております。令和6年度は15件のアイデアが寄せられました。厳正な審査の結果、大賞は以下のアイデアが受賞いたしました。

①台所での水仕事、食器洗いに、洗剤なしで汚れが落ちるスポンジを使用しています。
尚、油が多い場合、水を張りアルカリ電解水をひと吹きしてから洗うとスムーズで、排水口も汚れにくくなり環境への配慮につながります。
②自宅で溜まったペットボトルの活用法。ペットボトルの空容器に水を溜め災害時、停電などの時に雑用水として使用します。2ℓ～4ℓは便利で特に取手のある物は丈夫です。

揚げ物をしたあとの揚げ油中のカスやゴミを取るのに、水で溶いた片栗粉を投入して、再利用出来るようにしています。用意するのは片栗粉と水のみ。よく溶いて混ぜ合わせたものを普段揚げる温度より少し低めの油に投入し、ゴミが付着した片栗粉をすくいあげるだけ。
油を購入する頻度も、捨てる頻度も減り、とても助かっています！

使い古しのタオルを15cm角の使い捨て用ウエスにして家の各所に置いています。
(薄手のフェイスタオルがベスト)
・子供が食べ物・飲み物をこぼした時テーブルや床をすぐ拭ける。
・玄関でくつが汚れていたり、雨の日にぬれて帰った時に足元などをサッと拭ける。
・窓の枠や棚のホコリが気になった時、洗面台がぬれている時、気付いてすぐ掃除できる、などなど…ぞうきんのように洗ったりする必要もなく、拭いたらすぐ捨てられるので水や洗剤の削減になりますし、我が家ではペーパータオルやウェットティッシュの使用量が劇的に減りました！！



本社清掃業務課
蓮沼 誠 さん



サービス支援課
嶋津 優美 さん



サービス支援課
佐藤 真実 さん

4. 環境経営計画と取組結果

二酸化炭素排出量の削減

【評価判定の目安】

- ・・・実施済。80%以上の社員が取り組んでいる。80点以上の満足度である。
- △・・・一部未実施。50～80%の社員が取り組んでいる。50～80点ぐらいの満足度である。
- ×・・・未実施。50%未満の社員しか取り組んでいない。50点未満の満足度である。

消費電力の削減	取組状況	備考
室温は暖房期20℃、冷房期28℃で管理	△	
サーキュレーターを稼働させ、室内温度差をなくす	○	
使用していない部屋のエアコンはOFF	○	
定期的にエアコンのフィルターを清掃	○	
不要な照明は消灯	○	

消費電力の削減	取組状況	備考
クールビズ、ウォームビズの推進	○	
窓にすだれを垂らし、直射日光を防ぐ	○	
窓に緩衝材を貼り付け	○	
電力使用量の見える化（環境負荷データの揭示）	○	

ガソリンの使用量の削減	取組状況	備考
エコドライブの教育研修	○	
燃費・走行距離の把握	○	
5000 km（6ヶ月）ごとにオイル交換	○	定期点検実施
10000 km（1年）ごとにエレメント交換	○	定期点検実施
業務の効率化（運行ルートの管理）	○	

ガソリンの使用量の削減	取組状況	備考
適切な時期でのタイヤ交換	○	4月、11月実施
適切な空気圧の維持	○	
エコタイヤの導入	○	
不要な荷物を載せたままにしない	○	
計画的な低燃費車両への入れ替え	○	

灯油・LPGの削減	取組状況	備考
暖房温度は決められた温度以下で管理する	△	断熱性能が低い
窓の内側に緩衝材を貼り付ける	○	

灯油・LPGの削減	取組状況	備考
ウォームビズの徹底	○	
必要最低限の温度で給湯（夏季は使用しない）	○	

廃棄物排出量の削減と適正管理

一般廃棄物の削減（リサイクルの推進）	取組状況	備考
廃棄物置場の整理整頓	○	
不要な資料・カタログ等の辞退・返却	○	
コピー用紙削減（両面コピー、裏紙利用の徹底）	○	

一般廃棄物の削減（リサイクルの推進）	取組状況	備考
一般廃棄物の排出量記録	○	
社内の整理整頓	○	

産業廃棄物の削減と適正管理	取組状況	備考
保管場所の管理（安全衛生状態も含む）	○	
マニフェスト・契約書類の管理	○	

一般廃棄物の削減（リサイクルの推進）	取組状況	備考
委託先の状況確認	○	

化学物質管理

対象化学物資の管理	取組状況	備考
SDSの収集整理・対象製品・使用量の把握	-	R2全ての商品を切替
清掃方法の改善	取組状況	備考
化学物質を使用しない清掃手法の検討・情報収集	-	

対象化学物資の削減	取組状況	備考
対象化学物質含有量の少ない製品の選定	-	

総排水量の削減

水道使用量の削減	取組状況	備考
「節水」の掲示	○	
蛇口元栓の調整（必要最小限の流量量）	○	

水道使用量の削減	取組状況	備考
地下水の適正利用基準の策定と遵守	○	積雪センサー
その他節水対策機器に関する情報収集	○	

その他

社員のスキルアップ	取組状況	備考
資格取得者の増加	○	
社内研修会の開催	○	
テキスト参考書購入補助	○	

誤発報による緊急出動回数を減らす	取組状況	備考
機器点検の実施	○	
異常発報件数の把握	○	
対策の検討	○	

5. 指定管理施設の環境負荷について

5-1. 環境負荷の現状（令和6年度環境負荷自己チェック結果（指定管理）より）

■ 二酸化炭素排出量

※電力使用に係る二酸化炭素排出係数について、令和6年2月から当社の関連企業であるイービーエム・エナジー太陽光発電基地で発電した電力由来の電力をおきたま新電力から供給されている米沢市市民文化会館、米沢市児童会館、米沢市営体育館、南陽市勤労者総合福祉センターは、0.196、置賜総合文化センターのみR4年度東北電力（調整後：0.477）を用いています。

1) 指定管理施設における令和6年度のCO₂排出量は合計501,076kg-CO₂となっており、前年度比34%増加しました。これは平均的な一般家庭202軒分の排出量に相当します。

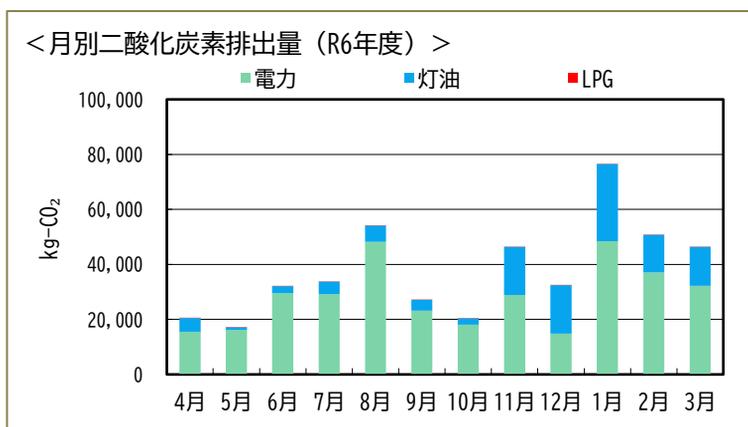
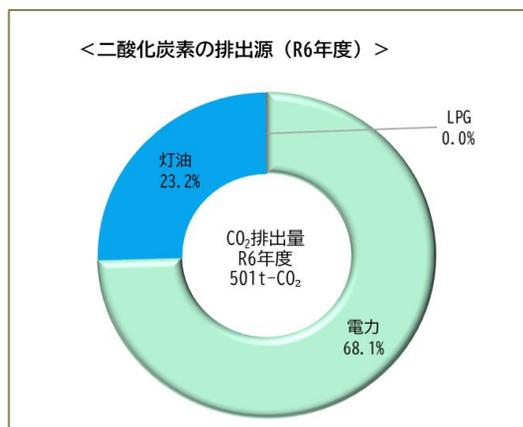
（令和5年度世帯平均年間排出量2.47t-CO₂ 出典：家庭部門のCO₂排出実態統計調査（環境省HP））

2) 指定管理施設から排出されるCO₂の68.1%は電力の使用に伴うもので341,218kg-CO₂（前年比76.8%増）、次いで灯油の消費に伴うものが23.2%、116,271kg-CO₂（前年比2.2%増）などとなっております。

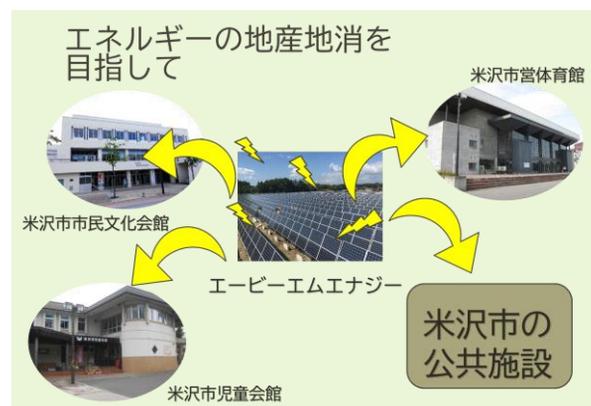
3) 電力は事務所の照明、冷暖房の稼働で使用しています。また、灯油は空調機ボイラー運転、事務所の暖房用、LPGは事務所給湯用となっております。電気によるCO₂排出量が増加しているのは、これまでCO₂排出実質0の電力からおきたま新電力に切り替えたためです。

4) 月別のCO₂発生量は8月の夏期間と11月～3月の冬期間（降雪期）に多くなっています。これは、冷暖房用の空調機を使用する機会が増えること、融雪用の地下水の引き上げポンプ（米沢市営体育館）などそして、主に暖房として灯油などの消費量が増加するためです。

5) 以上のことから、特に電力使用量の削減が重点課題となります。施設の照明のLED化を引き続き進めてまいります。置賜総合文化センターは指定管理者であるものの、米沢市教育委員会を始め、外郭団体が入居しており、電気の契約も米沢市です。指定管理者だけの努力では使用量を削減することが出来ないため、入居者や利用者の理解と協力が必須となります。



7 エネルギーの地産地消へ新たな取り組み



令和6年10月19日「エコカップやまがた」の事例発表の場にて、「エネルギーの地産地消」をテーマに発表を行いました。

※イービーエムエナジーの発電所はFIT（固定価格買取制度）電源による特定卸電力供給のため、太陽光発電はCO₂排出量は0ですが、環境価値は電力と分離した形となっており、そのため、おきたま新電力からの電力のCO₂排出係数は0でなく、0.196となります。

なお、令和7年度より、置賜総合文化センターもおきたま新電力からの電力供給となりました。

■ 廃棄物排出量

■一般廃棄物：可燃ごみ、紙類（資源回収対象）などは、行政の分別ルールに従い、それぞれ、量を把握した上で排出しています。可燃ごみが最も多く、3,413kg、次いで紙類（再生資源）が2,480kgとなっていました。特に米沢市の職員が入っている置賜総合文化センターは可燃ごみ2,670kg、紙類の排出が2,284kgと総排出量の8割を占めています。全体でのリサイクル率は42.6%でした。

■産業廃棄物：最も多かったのは廃蛍光灯で33.4kgでした。米沢市児童会館や米沢市市民文化会館はLED化が進行中なので排出量は少ないのですが、米沢市市民文化会館では催事で使用する電球の消費が多いことや、米沢市営体育館も一部LED化を進めていますが、アリーナ照明などは未だに蛍光灯を使用しております。置賜総合文化センターでは米沢市のゴミのルールに従い、蛍光灯は産業廃棄物でなく、不燃ごみとして処分しています。

社会貢献活動

エコキャップ推進運動について



米沢市児童会館では、平成25年に開館30周年を記念してペットボトルのキャップを使ったキャップアートを作成したことをきっかけに、毎年、ペットボトルキャップを集めてNPO法人エコキャップ推進協会に提供しております。

エコキャップ運動は、リサイクルの促進、CO₂の削減、売却益で発展途上国の医療支援の発足時は3つの目的でしたが、リサイクルの過程で雇用創出ができることがわかり、現在はこの3つの目的に加えて、障がい者・高齢者雇用促進などの4つの目的となっています。

<https://ecocap.or.jp/katudo/><https://ecocap.or.jp/katudo/>引用



南陽市勤労者総合福祉センターでは、キャップ430個を燃やすと3,150gのCO₂が発生するところに目を付けて、この時に排出される二酸化炭素を、燃費8.33km/Lの車（日本保有車両の平均燃費）で同じ量の二酸化炭素を排出して走行したと仮定し、走行距離を計算します。日本地図上に走行距離を記録していきます。スタートは南陽市勤労者総合福祉センターが位置する山形県南陽市、そこから海沿いを走行していきます。現在の到達地点で行われている地域の環境に関するエコ活動情報を調べ、地図上に記載することで、ご利用者様に環境情報も発信しています。集めたペットボトルキャップは、南陽市内の学校の収集に協力するため、提供しています。

■ 総排水量（水使用量）

米沢市営体育館、置賜総合文化センターで融雪のため地下水を利用していますが、量は把握できません。水道は、全て生活用水となります。

総合計5,874㎡使用し、昨年度比約13.2%増でした。なお、放流先は全て下水となります。

■ 化学物質使用量（購入量）



清掃業務に使用する洗剤、剥離剤等にPRTR成分を含有しているものを使用していましたが、令和6年度もPRTR成分を含有している洗剤、及び剥離剤は使用していません。

6. 環境関連法規等の遵守状況、訴訟等の有無

環境関連法規遵守については、当社および指定管理施設に適用される環境関連法規及び条例の一覧を作成し、年1回遵守状況を確認し、必要に応じて変更・追加・改善しております。本年度、自社で確認した結果、違反・訴訟はありませんでした。また、関係当局よりの違反などの指摘はこれまでありません。

法規制	遵守状況
環境基本法等	○
フロン排出抑制法	○
水質汚濁防止法	○
浄化槽法	○
廃棄物処理法	○
消防法	○
置賜広域行政事務組合火災予防条例	○
下水道法	○
自動車リサイクル法	○
家電リサイクル法	○
大気汚染防止法	○
ボイラー及び圧力容器安全規則	○



令和6年度更新審査の様子



令和6年度 現地確認（厚生社中山事業所）

7. 代表者による全体評価と見直し

当社は、エコアクション21の認証登録を受けてから9年が経過し、令和6年度は更新審査の年にあたりました。エコアクション21推進委員会を中心に、環境経営活動を着実に推進してまいりましたが、今回の審査においても大きな指摘事項はなく、環境経営システムが全組織において有効に機能していることが確認されました。また、5S活動に関しては、本社のみならず南陽営業所および他施設にも意識が広がっている点が高く評価され、組織全体での環境意識の定着が進んでいることを実感しております。

令和6年度の主な取り組みは以下の通りです。

■環境負荷低減への取り組み

- ・ガソリン使用量の削減を目的として、社用車のエコカーへの計画的な切り替えを実施。
- ・従業員を対象としたエコドライブ研修を実施し、運転行動の改善を促進。
- ・私用ゴミの持ち帰り徹底、節水・節ガスの呼びかけなど、日常業務における環境配慮を強化。

■廃棄物管理と情報発信

- ・作業着のリニューアルに伴い、古い作業着の回収・排出を行った結果、一時的に排出量が増加しましたが、適切な管理を徹底いたしました。
- ・社内広報誌「エコロジー」を発行し、環境活動の情報共有と社員の意識向上を図りました。

■組織的な環境経営の推進

- ・コロナ禍により中止していた委託先視察を再開し、有限会社厚生社中山事業所への訪問を実施。
- ・新入社員ガイダンスにエコアクション21の内容を盛り込み、環境意識の継承を図りました。
- ・PDCAサイクルを確実に運用し、11月11日・13日に実施された更新審査においても、環境経営システムの有効性が改めて確認されました。

■地域社会との連携・貢献

- ・毎月第一金曜日に社屋周辺の清掃活動を継続的に実施。
- ・4月24日には、米沢商工会議所建設部会主催の社会貢献清掃事業に参加。
- ・「やまがた家庭のアクション」への参加を通じて、地域との連携を強化。
- ・社員から募集した「エコアクション大賞」において、優れたアイデアを出した3名を表彰。
- ・これらの活動が評価され、「やまがたエコカップ賞」に選定されました。

当社は今後も、環境経営の継続的な改善と地域社会への貢献を両立させながら、持続可能な社会の実現に向けて取り組んでまいります。

株式会社イービーエム

代表取締役社長 斎藤 正則



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

株式会社エービーエムは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

環境経営レポートをご希望の方には、無料でお渡ししております。ご希望の際は、本社窓口までお申し出いただくか、下記までご連絡ください。

また、弊社ホームページ (<https://www.y-abm.co.jp/>) および
エコアクション21中央事務局のホームページ
(<http://www.ea21.jp/>) でもご覧いただけます。

〒992-0003 山形県米沢市窪田町窪田584-2

TEL0238-37-5733 FAX0238-37-2822